

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 児童自身が更に目的意識を持って話し合いを進め、「授業を通して自分の考えを深めたり、広げたりしている」ということを自覚しながら学ぶことができるようにしていきたい。 玉島っ子アンケート等を有効活用し、個と集団のバランスに配慮し、集団づくりを行ってきたい。 様々な場面で地域との交流が少なくなりましたが、地域人材を活用しながら学習を進め「玉島学」の学びを深めていくとともに、地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>“たくましく まごころいっぱい しっかり考え まなびあう” 子どもの育成 ～豊かでたくましい心と体の育成と確かな学力の定着をめざして～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心に授業改善を進める。 ②集団づくりと特別支援教育の両視点から児童を育てる。 ③地域のよさを活かした豊かな体験活動を行う。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上	・マイプランに基づいた授業実践を共有することで、取組の促進と改善を図る。	A	・校内研修で学力向上に向けた全職員での取り組みを共通理解し、進捗状況を報告し合うことで職員の意識は高まっている。	A	・県調査の分析結果から、問題点を職員で共通理解・共通実践できた。職員の学校評価アンケートでも4.よくあてはまる3.ややあてはまるが100%達成できた。	B	・授業の実践や学習状況調査の結果を大切に、日々の授業を良いものにしていくことが大切だと感じた。	学力向上CO(行徳) 研究主任(佐伯)
	○児童が目的意識をもちながら学び合い、自分の考えを深めたり広げたりする授業を行う。自分の考えを表現する場を授業の中に設定する。	○学校評価の質問事項「授業を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」(4/4いつも)と回答した児童70%以上	・唐津市「学力向上アクションプラン」の実践を図り、深い学びへつながる授業改善を行う。チェックシートを活用して学期毎に振り返る機会を設定する。	B	・毎月チェックシートの記入日を設定し、職員は自分の授業を振り返っている。校内研究でのGWやタブレット活用を取り入れ、引き続き児童が考えをもち、深められる活動を続けていくことで成果指標を達成できるようにする。	A	・アンケート結果が、成果目標の70%をやや上回った。アクションプランのチェックシートを基に、職員が授業改善の意識をもてた。徐々にGWを取り入れる事が可能になった事で、考えを深める機会を増やすことができた。	A	・電子黒板の活用や1人1台端末の活用を良く行っていると感じた。	校内研究(佐伯・田原)
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級力アンケート「友達を支える力」「安心を生む力」の項目において肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・学級力アンケートを年5回実施し、結果を目に見える形で児童へ返す等その活用方法について工夫する。 ・自問ノートや道徳ノートの児童の記述に価値を見出し、コメントを書く。 ・ここに集会(人権集会)を年間5回実施する。	B	・全体としては、「友達を支える力」は90.1%、「安心を生む力」は81.9%であり、共に目標値は越えている。しかし、「安心を生む力」の中の「認め合い」「尊重」が低い学年がある。学活や道徳の授業で取り上げ、児童の意識を高めていく。	B	・全体としては、「友達を支える力」は92.0%、「安心を生む力」は84.8%であり、中間評価の時点よりやや高くなっている。「安心を生む力」の中の「認め合い」「尊重」が低かった学年も高くなった。児童の意識を高まったと思われる。	A	・学級力アンケートの結果をもとに子ども達と振り返るといことは効果的だと感じる。 ・先生方の声かけが児童のやる気や心を高めることにつながると思う。	道徳教育推進リーダー(中野) 特別活動部(松門・力武)
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・玉島っ子アンケートを2か月に1回実施し、児童の生活の問題点を把握、改善する。把握したことや児童の様子などから、毎月1回程度の生活打ち合わせや連絡会等で気になることを共通理解をして話し合うようにする。	B	・玉島っ子アンケートをもとに個別に話をして、子どもの気持ちに寄り添って解決に向けて動いたりした。 ・生活打ち合わせ等で気になることを全職員で共通理解することができた。	A	・玉島っ子アンケートをもとに一人一人と面談をして、子どもの気持ちに寄り添って解決に向けて動くことができた。生活打ち合わせや伸びっ子研等で気になることを全職員で共通理解することができた。 ・いじめや子ども間のトラブルにアンケートを頼るは、迅速に課題解決に取り組みるとともに、楽しい学校づくりに努めている。」と回答した職員が、よくなってはまる。ややあてはまるまで100%となった。	A	・各種アンケートをはじめ、さまざまな取組で実態把握をされていることがよく分かった。 ・学校と家庭が連携して、迅速に対応することが大切だと感じた。	人権・同和教育(宗・瀬戸) 生徒指導部(宗・瀬戸・片宗) 教育相談(岩村)
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)70%以上	・学校行事や授業を通して、夢や目標について自ら考えさせる場面を設ける。 ・体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・キャリアパスポートの活用について職員で共通理解・共通実践を図っている。児童が自分自身を高める目標が持てる取組を行っている。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学校6年生)が88%を越えた。 ・100%の教職員が夢や目標について考える場面を設定したり、夢や目標の実現に向けた教育に取り組んだと回答することができた。	A	・一つ一つのめあてや目標に向けて、取り組んだ過程を評価してあげたい。 ・保護者や地域の大人が良い手本として、子ども達に関わりたい。	キャリア教育担当(行徳)
●健康・体づくり	○「運動習慣の改善や定着化」	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒65%以上	・朝や15分休み、昼休みの外遊びを奨励する。 ・縦割り活動のレッツプレイに取り組み、体を動かす機会を増やす。	B	・コロナ禍の中で児童の遊びにも制約が多い中、外遊びも積極的に奨励はできていない。持久走大会に向けて「マラソントイ」を計画し、実践した。 ・年2回のレッツプレイの1回目を5月に運動委員会の企画・運営のもと実施し、充実した時間を過ごした。	B	・年度後半も、外遊びにもマスク着用や距離を保つ等の制限を課しており、積極的には奨励できなかったが、そうした中でも元気に校庭で遊ぶ姿はよく見られた。第2回の「レッツプレイ」は見送らざるを得なかった。 ・週に3日以上授業以外に運動や外遊びをする児童は、上学年では55%に留まった。 ・成果指標の数値を時間数で求めるのは難しかった。	B	・運動会や持久走大会を楽しみにしている。 ・運動場で遊ぶ子ども達の元気な姿を見ていて、ほほえましい。	保体部(永瀨)
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・事例研修などを適宜、取り入れ、危機意識を高めておく。 ・安全教育は、実情に合わせて行い、体験的学びと振り返りを大切に、自ら命を守ろうとする意識を高める。	A	・交通事故もその他の事故も発生していない。これからも、引き続き体験的学びと振り返りを大切に、自ら命を守ろうとする意識を高めていく。	A	・児童の交通事故は0(ゼロ)であった。交通事故に限らず、状況に応じた行動をすること、話を聞くこと、周囲を確かめることを大切にすることができた。 ・事件事故もなく無事に過ごせたことがよかった。これからも引き続き児童の生活に気をつけていきたい。	A	・マスクをつけて登校しているの、朝の挨拶が頭を下げるだけの時もある。春秋会の下校の見守りでは安全確認に加えて、挨拶も積極的にしていきたい。	生活部(宗・瀬戸)・教頭の
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・平日18:30施設を目指す。 ・共有フォルダーや教材を整理し、様式や資料の共有化を図り、効率的に業務を進める。	B	・金曜日の定時退勤、平日の18:30退勤を目指して見直しを立てながら取り組んでいる。行事の準備や児童対応で時間がかかる日もある。 ・共有フォルダーや教材などを一斉に整理する時間が取れると効果的である。	B	・金曜日の定時退勤、平日の18:30退勤を目指して見直しを立てながら取り組む雰囲気が出てきた。 ・共有フォルダーや教材を整理し、様式や資料の共有化を図り、効率的に業務を進めることができた。行事の準備や資料の作成、アンケート回答など、短時間でも一斉に取り組むことで、効果的かつ協働的に業務を進めることができた。	B	・感染症拡大防止のため、今までなかったような仕事や作業などが増えていると思う。	教頭 事務主事(吉田)

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援に関する研修会を実施する。 ・伸びっ子研・ケース会議・支援会議等の開催、情報共有をする。	B	・特別支援に関する研修会については、コロナ感染症流行の為中止となった。別日に研修を実施する予定である。 ・伸びっ子研・ケース会議・支援会議については計画的に、またその必要性に応じて行い、共有できている。	B	・中止となった特別支援に関する研修会を、冬休みを持った。全職員で支援策を考える機会ができた。 ・伸びっ子研や、その他の会議で、支援を要する児童についての特性理解や対応策を共有することで、特別支援に関する専門性の向上75%の回答を得ることができた。	B	・一人ひとりの特性に応じて、教育を施していくことの大切さが伝わってくる。誰かに負担が増すのではなく、全職員で学んで体制を強化していくことがよく分かった。	特別支援(田原・松門)
○開かれた学校づくり	○保護者・地域との連携	○地域人材を活用した生活科・総合的な学習の時間(玉島学)を年間1回以上全クラスで実施	・玉島学で、全クラスで地域人材を活用する。 ・学校での学びを発信し、地域の関心を取り組んでいく。	B	・コロナ禍で、地域人材の活用が計画通りには進まないが、感染症防止対策の上、実施時期をずらしたり、規模縮小したりして学習を進めている。 ・学校便り、学級通信、HPを活用して学びを発信することができている。	B	・学校便り、学級通信、HP、はなまるメール等を活用して学びを積極的に発信することができた。 ・玉島学での地域人材活用については、感染防止の対策を入れながらできるだけ実施する方向で工夫をした。Withコロナを見据えた地域人材の活用方法を探っていく。	A	・難しい状況下で家庭の事情や友達との関係で不登校になる児童も無く、元気に学校生活を送ることができたのは、学校と家庭・地域の連携が図られているからだと思う。	教頭・教務
○小小連携、小中連携の推進	○9か年の学びを念頭に置いた、小小連携、小中連携の推進。	○浜玉中学校区での体験活動や授業公開等を実施する。(授業公開1回、合同体験3回)	・中学校区で共通目標を設定し、実践を行い、評価・改善していく。	B	・小中連携については、来年度の浜玉地区の研究に向けて共通理解を図り、具体的な実践方法を企画中である。	B	・小中連携や小中交流など、新型コロナウイルスの影響で実施することが難しかったが、実施時期をずらす、学年を絞る、内容を簡略化するなど、工夫して取り組み、つながりをもつことができた。職員の学校評価アンケートでも100%達成できたが、3.ややあてはまるが多かった。	B	・それぞれの学校のよさや地域の特性をいかした交流を続けてもらいたい。	教務・1年担任(力武)

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、校内研究を中心に授業実践を進め、その成果と課題を全職員で共有することで、授業改善を進めることができた。次年度は、教科に応じて、話し合いの視点をより明確にし、児童自身が目的意識を持って学び合いを進め、自分の考えを深めたり、広げたりできるようにしていきたい。</p> <p>・生活打合せやケース会議等を行い、児童1人ひとりについて全職員で情報共有しながら支援を行ってきたい。玉島っ子アンケートでは一人ひとりの声を大切にするために面談を行うことで、困り感にいち早く寄り添ったり、頑張りや賞賛の声をかけたりすることができた。また、学級力アンケートでは、学級の実態について客観的に課題を把握し、話し合っていく中で、主体的に学級集団を高めていくことができた。次年度は、アンケート内容を見直し、実情に応じたものにしていきたい。</p> <p>・今年度も、様々な場面で地域との交流が少なくなりましたが、活動内容などを工夫して体験活動を行うことができた。次年度は、感染状況が収まり従来の活動ができるのを待つだけではなく、新しい地域人材や地域素材の発掘を進めるなどしていきたい。</p>
----------------	--